

2007年サポーターズミーティング議事録

日時：2007年2月25日(日)

場所：神戸ウイングスタジアム研修室

【参加者】

株式会社クリムゾンフットボールクラブ 代表取締役社長兼 GM 安達貞至

株式会社クリムゾンフットボールクラブ 専務取締役 叶屋宏一

株式会社クリムゾンフットボールクラブ チーム統括本部長 和田昌裕

ヴィッセル神戸サポーターの皆様 約 150 名

【議事】

10:20

弊社代表取締役社長兼 GM 安達貞至より挨拶

安達：

昨日より急に寒くなりましたが、そんな中お越しいただきありがとうございます。

昨年は皆様の熱いご声援をいただき、誠にありがとうございました。

また、入れ替え戦の時、皆さんの思いが一つになってチームにいい影響を与えてくれたと実感しました。

改めて御礼を申し上げます。

昨年12月に行われましたファン感謝際の際に、熱心なサポーターの方から「J2で優勝して昇格すると宣言したのに、入れ替え戦で昇格だった。どう責任をとるのか？」とお叱りをいただきました。

そのお叱りは尤もです。

我々も優勝して昇格したいと思っておりましたが、結果的には入れ替え戦での昇格という形になりました。

しかし、今振り返ってみると、J1に一年で復帰できたのがラッキーであったと言えるほど昨年の戦いは厳しいもので、入れ替え戦の激しい2試合を経験できたことは、チームのためにはよかったと思っております。

もし、入れ替え戦なしでJ1に復帰できたら、選手達も我々も「J1でも戦えるだろう」と思って終わっていたと思います。

しかし、J1で16位の福岡にあれだけ苦しんだということは、身をもって「J1での戦いは苦しいものになる」ということを体験したのだと思っています。

また、入れ替え戦時のメンバーは平均年齢23歳と非常に若く、そして「助っ人」外国籍選手なしで戦えたこともいい経験になりました。

荻晃太や柳川雅樹など若い選手が激しい、厳しい体験をしてくれたことは、彼らが成長す

る良いきっかけになってくれたと思っています。

優勝して昇格できなかったということで、皆さんにはご満足頂けなかったと思いますが、入れ替え戦を経験して（J1に）復帰したということは、チームにとってプラスだったと思います。

チームの強化方針などは、和田本部長から後ほどご説明をさせていただきますが、私は常々、短期的に物事を見るなど話しております。

チーム作りは一步一步進めていくもの。

ゴムひもが急に伸びたら切れてしまうのと一緒で、急に伸びようとするとう障害が起きる。そのためには、目の前の1勝1敗にもこだわらないといけませんが、それだけにこだわらず、もっと先のものを見据えてやっていかないといけない。

チーム作りは和田に任せ、私はもっと大きな意味でのチーム作りを進めていきます。

このたび、大久保嘉人選手の移籍に際して、新聞に大きく「三木谷資金 4 億」と出ましたが、今は三木谷（浩史）会長のお金に頼らず、自立して、やっていきたいと考えています。あの報道は間違いで、大久保嘉人選手もクラブの予算内で獲得したものです。

今回の補強では、予算がなくて獲得できなかった選手もいますが、このように予算の中でやっていくことがチームの力だと思っています。

もちろん、三木谷会長には楽天のコマーシャルをはじめとして、色々な形で支援をしてもらっていますが、三木谷会長個人のお金を頼りにしていくのは、今後は避けていきたいと思っています。

少しずつチームの改革を進めていますが、これも急に改革すると選手の間から不信感やひずみが出ます。

少しずつ改革し、自立できるチーム作りが出来るようやっていっています。

難しいことも克服しながら、常に先を見てやっていこうと思っていますので、皆さんご指導、ご声援よろしくお願いいいたします。

今年の目標ですが、ここで言って達成できないとまたお叱りを受けるかもしれませんが、チームの目標は9位。

ヴィッセルの過去の歴史で一番いい成績は10位。

それを上回りたいと思っています。

監督は5位と言っていますが、私は9位。

これをなんとか確保したいと思っています。

弊社チーム統括本部長 和田昌裕より挨拶

和田：

和田です。

おはようございます。

今回初めてサポーターミーティングに参加します。

この立場で昨年一年やってきて、チーム作りの難しさを痛感しました。

第 1 クールはなかなか結果が出ず、辛かったのですが「やり方は変えない」というバクスター監督の強い意志がありました。

皆さんからは「大丈夫か？」という声もありましたが、第 2 クール以降快進撃を続けました。

これはバクスター監督と選手の間に信頼関係があったからです。

しかし、第 4 クールに失速。

選手層の薄さや、イエローカード、退場、外国籍選手の怪我などもありました。

こうしたことが失速につながったと思います。

そして入れ替え戦に回りましたが、あの 2 戦で戦った最後の力、そしてサポーターの皆さんの気持ちが 2 試合に集結して、復帰できたと思っています。

本当にありがとうございました。

1 年で復帰できたということで、これからが新たなスタートです。

J1 を維持していくことがこれからは重要です。

チームの方針としては、これは昨年も打ち出していますが、発掘育成型ということで変わりありません。

当然補強もやっていきますが、チームの経営安定をはかるためにも、若い選手を育て、トップチームで活躍していくようにしなければなりません。

これがヴィッセルにとって最も大事なことではないかと思っています。

今年の監督は、昨年途中に加入し、入れ替え戦も戦ってくれた松田浩監督にお願いしました。

松田監督とは監督と選手、監督とコーチ、そして今回は監督と強化部長という間柄でやってきており、お互いのことをよく理解しています。

また、福岡では 3 年半監督としてやってきたということもあり、実績と経験を持っている素晴らしい監督です。

コーチは監督の意向もあり、福岡で一緒に戦った倉田安治コーチ、ジュビロで 10 年戦った菅野淳コーチと充実したスタッフが揃いました。

選手の補強についてですが、補強に完璧はありえないと思っています。

自己満足的に完璧な補強はあるかもしれませんが、色々な側面から見て、完璧というものはないと思います。

昨年外国籍選手の獲得失敗で苦しんだ経験がありましたので、外国籍選手の獲得にいち早

く着手しました。

点の取れる選手ということで、当時山形のレアンドロ選手が決まり、それに伴いできるだけ攻撃的な安定した力を発揮できる選手ということで、昨年のクラブ W 杯にも出場したポッティ選手。

この二人をいち早く獲得できました。

外国籍選手を先に押さえることで、あとは日本人選手をどうするのか。

まずはゴールキーパー。

昨年、荻晃太選手が安定した成長を見せてくれましたが、まだ J1 で安定した仕事ができるか？という不安もあったため、経験と実績のあるキーパーということで榎本達也選手に声をかけたところ喜んで来てくれました。

また DF ですが、J1 で若い選手だけで持ちこたえられるだろうか、と思い色々な選手に声をかけました。

その中で、センターバックもできて左サイドバックもできるということで、山形の内山俊彦選手を獲得しました。

彼は、地味けどしっかり仕事の出来る選手です。

そしてもう一人日本人で点の取れる選手が欲しいということで、出てきたのが大久保嘉人選手。

タイミング的にセレッソが J2 に落ちて、本人が「J1 でやりたい。代表にも戻りたい」ということもあり、うちが最後のギリギリで獲得を決めました。

また出戻りですが、YKK AP から岸田裕樹選手も獲得しました。

昨年の天皇杯で彼にやられた時、松田監督と「いい選手だね」「いや、元々うちの選手なんですよ」という会話をしたことを覚えています。

あと MF も誰か欲しいところでしたが、先ほど安達社長も言った通り、予算ありきの補強なので、そこまでお金がありませんでした。

また、育成発掘型ということで、若手も獲得しました。

即戦力で大学卒の近藤岳登、松岡亮輔の 2 選手。

近藤選手は 26 歳ですが、新入団記者会見の席でコントをするなど、度胸もある選手です。すぐに試合に出られるかと聞かれたら、まず環境にも慣れないといけませんが、必ず出られると思います。

そしてユースから 3 人、また三澤慶一、三原雅俊といった将来有望な選手を総勢 14 名獲得することができました。

こちらの思いだけで獲得できるものでもなく、彼ら自身が「神戸のためにやろう」と思わないと働けないと思いますが、そうした持っている思いは強いものがあると判断し、獲得に至りました。

これから厳しい戦いが始まりますが、選手層は昨年より厚く、一人ひとりのレベルも上がっていると思います。

1月末からキャンプに2週間行ってきましたが、練習ゲームを重ねる上で、チームとして良くなってきています。

大分、新潟、そして昨年Kリーグで3位の仁川とやりましたが、勝利もできましたし、そして失点も少なかった。

私はディフェンスを心配していましたが、失点が少ないということで良い結果が出ていると思います。

昨日（vs.京都・非公開）も非常に良い試合をしました。

一週間後に開幕を控えて、良い準備ができていると思います。

ただ、良い準備ができたからといって良い結果がでるかは分かりません。

昨日もゼロックス（スーパーカップ）を見ましたが、J1では（浦和）レッズとガンバ（大阪）の2チームは抜きん出ていると思います。

しかし、その他の16チームとはやってみなければ分からない。

そのレッズやガンバも毎回勝てない相手ではない。

今年はヴィッセルも良い素材の選手が揃っているので、うまくかみ合えば素晴らしいチームになると思っています。

チームとしては目標9位。

これが二桁になったり、一桁になったり、逆に優勝を争うチームになるかもしれない。

これは監督コーチと選手が信頼関係をもって1年戦えるかが重要です。

なかなか強化と現場は難しい関係でもありますが、シーズン当初より壁を作らず、現場の要求と強化の要求をお互い聞きあえるような組織にしようと思っています。

またここ何年も、監督が1年間通して続いたことがありません。

まずは1年間通じて、そして数年指揮をとってもらえるような体制をとりたいと思っています。

監督が2、3年続いていけるようなチームを作っていきたいと思っています。

ガンバは西野監督が6年目です。

ここが安定することは、クラブが安定する最初の段階だと思っています。

これらは、サポーターの皆さんの協力なくしては絶対にできないことです。

これから厳しい戦いが続きますが、厳しく暖かいサポートをよろしく願いいたします。

【質疑応答】

U-21 について

- ・ U-21 チームが伸び悩んでいるように思える。選手を伸ばすためにやっているのか、勝ち負けにこだわってやっているのか分からなかったので、どういう方針でやっているのかを聞かせて下さい。
- ・ 先週の試合結果を見ると、非常に不安。現在の (U-21) 選手達の意欲、状況を聞かせて下さい。
- ・ U-21 の成績が悪い。安達亮監督含めスタッフが選手と合わないのか、選手に能力がないのか、教えて下さい。

【回答者：和田】

トップは結果にこだわってやらないといけません。J1 で生き残っていかないといけませんから。そのために結果が出るメンバーを監督が選んで、毎試合戦っている。U-21 は、皆さんからの質問にもありますが、何のために作るかという、プロでありながら若い選手を育成していく。そこから良い選手が出てくるのが目的です。確かに勝敗の面ではなかなか結果は出せていません。ですが実際に選手は育っているのか、というと、実際育ってはいます。しかし、それがすべて結果につながるわけではないと思います。

成長しながら結果も出ないと満足できないと思いますが、さらに厳しい環境において、勝ちながら成長するようにしていきたいです。負けるより勝つほうが成長の速度は速いですから、トップ同様、勝ちにこだわったチームにしていきたいと思います。私自身も、U-21 の結果には満足していません。このレベルアップがトップチームのレベルアップになると信じているので、追求していきたいと思っています。

練習生として参加している稲田瑞穂選手のことを教えてください。

【回答者：和田】

今シーズン初めより練習生として参加している稲田選手は現在、関西学院大学の学生で、同校のサッカー部員です。しかし、本人と学院の監督と話した中で、学生の試合に出られなくても、今の環境ではなくプロの世界で練習をやりたいという思いが強く、元々神戸ユースの選手でもあったので、練習環境を与えることにしました。しかし公式戦には出られません。特別指定選手になれば出られるようになりますが、そこにいくまでの練習の環境は与えるということです。別に契約はしていません。あくまでも練習生として参加しているということです。

去年、柴垣勇輝選手を1年で戦力外にした。それなら何故取ったのですか？

【回答者：安達】

和田が強化部長になる前の契約ですので、私から回答させていただきます。滝川第二高の黒田 (和生) 先生との話で、一年だけ預かってくれないかということでした。それで預か

ることにしました。その一年間の中で、ウチとして将来的にいけそうだなとなれば契約を継続しよう、と話していました。しかし色々考えたときに、無理かなという判断になり、一年で契約を終了したということです。親御さんも黒田先生も了承した上で、1年間お預かりしたということです。

黒田和生氏の育成部長就任について

- ・ コースに他府県から入ってくるとあったが、実際そういう他府県からトレセンにかかるような選手が獲得できているのか？今年の現状も踏まえて教えて下さい。

【回答者：安達】

黒田先生の件ですが、想像以上にサッカー業界では関心が持たれており、各方面で記事になっているようです。Jリーグのどのチームを見ても感じるのですが、指導者の経験不足があります。例えばガンバ大阪はコースの選手が育って脚光を浴びていますが、その指導者にはどれだけの経験があったのか？ガンバは釜本サッカースクールとして早めに育成の強化に努めていましたが、それでもまだ20年程度です。高校サッカーはご存知のように、昔から高校選手権を目指して頑張っています。黒田先生もしかり、国見高校の小嶺（忠敏）さん、鹿児島実業の松澤（隆司）さんなど経験の長い指導者が多くいらっしゃいます。その意味では、最近脚光を浴びているJのコースとはいえ、まだまだ経験が浅いのが現状です。そうした意味で、まずはヴィッセルの育成指導者を育成してほしい、レベルアップさせてほしいというのが一つ目の彼へのお願いでした。

二つ目は、色々な選手を大学に送り出していることもあり、全国各地の強豪高校チームの監督とコミュニケーションを取れる。そして地元の中学の監督ともコミュニケーションが取れる。そこから、いい選手をスカウトしてきてもらう。あるいは大学の監督とコミュニケーションを取り、選手をヴィッセルに送り込んでもらう。そういった仕事も彼にお願いしたいと思っています。

最後に三つ目は、ヴィッセルを強くするためには兵庫県の中学、高校がレベルアップすることが必要だと思っています。そこから優秀な選手がトップへ来るように、その底辺をレベルアップさせるためにも、地域に彼が指導に出向き、指導者や選手を育成してもらう。以上三つに期待して彼を招聘しました。

また、黒田先生を関西のトレセン（トレーニングセンター）のメンバーに入れてもらうことも日本サッカー協会にお願いしました。トレセンの指導に行くことで、良い選手を発見することが出来ます。そこから早めに獲得に動ければと思っています。今年の4月から関西トレセンに入ることが決定しています。

そして他府県からの入団ですが、今年のコースには15名が入りますが、そのうちの8名が兵庫県外から来る選手です。これはヴィッセルにとって初めてのことで、遠い所は長崎、和歌山、愛媛、香川などからやってきます。その中には2人の日本代表候補がいます。また、地方から来る選手は、その地域のトレセンの代表です。優秀な選手が集まってきます。こ

れは寮が出来たり、神戸学院との提携が進んだり、またユースチームが頑張った結果を残してくれたことなどが要因です。しかし、私はまだ満足はしていません。可能なら兵庫県下からもっと多くの優秀な選手が入ってきて欲しいと思っています。他府県からの加入は3名程度でいいのです。そのためにも黒田先生を派遣し、兵庫県全体のレベルアップをはかりたいと思っています。そう簡単には育たないとも思っていますが、長い時間をかけてやっていきたい。そのための今年はスタートです。

バクスター前監督について

- ・ 昨年のサポーターズミーティングで、3年間は監督・コーチを変えないとっていたと記憶しています。バクスター氏が家庭の事情で帰ったのは仕方ないが、浦和のブッフバルト前監督のようにアドバイザー契約を結ぶなどいうことで彼を残せなかったのですか？
- ・ 3、4週間前にバクスター氏のインタビューが雑誌に掲載されていましたが、その一番最後の文に『日本代表の一員に戻るにはいつでも準備ができています』とありました。どう思われますか？

【回答者：安達】

バクスター氏の件は、私のみならず、皆さんも残念に思ったと思います。彼とは以前にヴィッセルを作った時から共にやってきた仲間で、特別な思いもありました。今回家族の理由でどうしてもなく退団しましたが、彼自身もシーズン途中で退団するということがこれまでなかったので、悩みに悩んだ末の退団となりました。その後アドバイザーとして契約しているかという、書面ではしていません。ただ彼はヴィッセルが好きで、福岡での試合のあとも、帰りのバスの中ですぐに電話をくれ、その後も連絡を取っています。お嬢さんの具合もいい方向へ向かっているようです。残念ながら奥さんのお父さんはバクスター氏が戻ってすぐ亡くなられたそうです。だからといって、来年再来年、神戸に帰ってくるということではありません。

代表にという話もありましたが、日本代表監督がトルシエ氏になると、「バクスターはどうか？」という話がありました。その後、川淵（三郎氏・日本サッカー協会キャプテン）さんと食事をしたときにも、彼は代表監督の候補の一人だと話していました。そこで私なりの意見は話しましたが、協会は候補として彼をチェックしているみたいです。またバクスター氏自身も、可能であれば代表監督はしてみたいとは言っていましたし、そういう意向は持っていると思います。ですから、そういった記事が出たのだと思います。

昨シーズンを通して、三浦淳宏選手のチームという印象を、技術・精神的な面でも受けました。もちろん若手の成長もありましたが、三浦淳宏のあとにチームをまとめて引っ張っていく選手をどう考えていますか。

【回答者：和田】

今、どこのチームでもチームリーダーは少ないです。日本リーグ時代は我が強い選手が多

かったのですが、今の選手はいい子が多く、鼓舞する選手は少ないです。鼓舞する選手というと、レッズの（田中マルクス）闘利王選手や元ガンバの宮本（恒靖）選手などです。ただ、その選手と比べて三浦選手はちょっと違います。アツは自分のプレーを黙々とやることで「ついてこい」という選手。じゃあ次は誰かということ正直分かりません。今、副将をトーマ選手と北本選手が務めていますが、候補としては北本久仁衛選手です。彼は生え抜きの選手で、ここ何年間もずっとレギュラーとして頑張っています。しかし先のことは分かりません。今後出てくる選手もいるでしょうが、これからも見届けたいと思います。

背番号 13 について

- ・背番号 13 の意義を確認したい。
- ・昨年のサポーターズミーティングの中で、13 番は神戸、兵庫出身の選手にという話があったが、今回、記者会見で大久保嘉人が 13 番とありました。何故そうなったのか聞かせてください。

【回答者：安達】

ご指摘通り、我々は地元出身で頼りになる点取り屋に 13 番を、と決めていましたが、正直なところ、地元出身でそういった選手が見当たらないことから、大久保嘉人選手に対する期待ということで方針を変えて、彼に 13 番をつけさせました。実際、彼は 10 番にこだわっていたのですが、彼に直接電話をして、ヴィッセルの 13 番の意味を説明したら、「分かりました」と。「地元で活躍する選手につけさせる番号ということをみんなに話しているから、活躍しなかったら、それだけ批判もでるぞ」と重ねて話したところ、「分かりました。13 番をください」ということでしたので、彼が 13 番をつけることになりました。皆さんに話したときとは違ってしまっていることはご了承ください。

ホルヴィ選手移籍について。

- ・移籍期日を越えていたと思いますが、経緯を説明して下さい。

【回答者：安達】

ホルヴィ選手の移籍期限についてですが、退団には期限がありません。しかし残念なことに、Jリーグは登録するときには期限がありますが、向こうのチームには期限がなかったのです。彼があと 2 週間早くそういう話をしてくれれば、次の外国籍選手を探してくる時間はあったのですが、日本のウインドウがしまった後に彼の退団の話がありました。この経緯ですが、ホルヴィ選手と来年の契約をどうするかという話までした 2、3 日後に、彼の元にオファーがあり、彼自身生まれ育った国のクラブからのオファーだったため、舞い上がってしまいました。朝、私に言った後、練習グラウンドでも選手にも言ってしまいました。ホルヴィ選手の心は既にヴィッセルにあらざでした。ですので、逆に出てもらったほうがすっきりすると思いました。戦力的にはマイナスになりますが、チームのムードを優先して退団を容認しました。最後は、移籍金のことでも少しもめましたが、こちらも粘って移籍

金は十分にいただいてから、帰らせました。先ほど申し上げた通り、移籍期間の関係で外国籍選手の補充は出来ませんでした。

ジュニアユースの監督が代わりましたが、広島から来られた長野監督から野田さんに代わった経緯を教えてください。

【回答者：和田】

長野さんには、昨年広島から来て1年やってもらいました。スタッフ同士は横の関係が大事なのですが、そこでうまくやっていけないところがありました。今後のためにも、そういったところを甘く見るより、ハッキリ見た方が、ということで交代することになりました。今年、ジュニアユースの監督に野田が就任しましたが、彼は選手としても実力を持っているし、子供達に関してもいい関係を築けます。そういう思いもあり、野田にしました。

強化スタッフ役割と今後について

- ・GM補佐の佐藤さん、また安達さんと豊富な経験をもった方がヴィッセルに入って、引っ張ってもらっているが、どうやってこの経験などを継承させていくのか。
- ・GM補佐の佐藤さんの仕事内容は？

【回答者：安達】

ご指摘いただいた通り、私も年ですて（笑）。ヴィッセルに戻ってきてほしい、という話を三木谷会長頂いたのは年の浦和戦の後だったのですが「では一番必要なのは後継者の育成ですね」という話を入団前に、三木谷会長にした位、後継者を育てることが私の仕事だと、十分私のなかで認識はしております。本当に「いつ辞めるのか」というのも考えていますし、GMという職は和田に引き継いでいってほしいと思っています。

和田というのには、2つの理由があります。1つは地元神戸で生まれ育ったということ。そしてもう1つは、ヴィッセルのスタート半年後から、ずっとヴィッセルで活躍してくれている。ヴィッセルの歴史をよく知っているということ。会社の中に、クラブの生い立ちをしっかりと認識している人間が絶対必要だと思っています。次から次に新しい人がきて、どうなっているのか分からないのはいけません。

元々、神戸の医師会が「神戸にJリーグのチームをつくろうよ」と20万人の署名を集めてくれて、そこからヴィッセルがスタートしたということ、社員でも知らない人間がいます。そういう意味で和田はよく知っている。そういったベースを持った上で、選手達や高校生の父兄に話しをするのと知らずに話すのでは全然違います。以上のような意味で意味で、後継者として考えています。

皆さん、各Jリーグのクラブを見てもらったらわかると思いますが、GMがころころ代わっているチームは強くなっていません。監督が代わるのは仕方のないこと。例えば昨日、ゼロックススーパーカップでガンバが4-0で勝ちましたが、あのガンバも、かつては強化部長も頻繁に代わっていました。今の強化部長になって、7、8年が経ちます。その間、西野

(朗)氏が監督としてチームと共に成長しているのも感じます。そうして今のガンバがあるのだらうと思います。

残念ながらヴィッセル、セレッソ(大阪)、京都(サンガ)は強化部長が頻繁に代わっています。これが何故いけないのかと言うと、強化部長の中には「こういうチームにしたい」という強いコンセプトがないといけません。しかし強化部長が変わるとそのたびにチームコンセプトが代わってしまいます。そうすると積み上げがないのです。チームが少々低迷しても、強化部長はしっかりとチームコンセプトを持って育てていく。それが大事だと思っています。強化責任者が長くやっているところは、絶対強くなっています。そういうものです。私は和田に、バトンタッチしてやってもらいたいと思っています。これがチーム強化において最も大事なことです。監督が代わるのはある程度仕方のないことですが、前の監督から大きくサッカースタイルを変える監督は呼びません。松田監督も昨年バクスター氏がやった4バックを継承してくれています。

佐藤 GM 補佐もクラブの中では私の次に年です。彼も普段何をしているのかと思われていると思いますが、非常にいい仕事をしています。例えば今年ポッティ選手が入りましたが、神戸を含めて韓国2チーム、日本4チームの6チームで取り合いをしました。そんな中、うち最も安い金額で獲得に成功しました。これは何故かといいますと、他のチームは代理人と契約していましたが、うちは佐藤 GM 補佐にブラジルのチームに直接交渉させ、彼の語学とノウハウを使い、獲得できました。手続きの処理なども全部完璧にやっています。年末から年明けまでブラジルで全部完璧にやってきました。これは会社にとって、数千万円の利益に値します。向こうのチームも直接来て、交渉してくれたということで、お互いにハッピーになったと思います。彼はそういう仕事をしています。また今も、外国人選手に関する税務上の処理などもやってくれています。彼の後継者としては、吉池(淳・強化部)にノウハウを継承していきたいと思っています。交渉ごとやその他がありますので、人によって、できる人間とできない人間がいると思いますが、その辺はしっかりと見極めていきたいと思っています。

柏の若手選手がサポーターと一緒にゴール裏で応援をしていました。ああいったことはヴィッセルではできないのでしょうか？

【回答者：和田】

今年から、若手選手は、試合のレポートを全員書かせようと思っています。そうやって考えて試合を見ることで、彼らのモチベーションアップにもつながるのではないかと考えています。こちらが予想していない内容が返ってきたりするかもしれません。ペンを持ちながら試合を見ている選手がいると思います。サポーター席に、というのは検討します。

伊丹ジュニアユースが設立されましたが、まだ伊丹の周辺の子供達の視線はガンバに向いています。もっとヴィッセルに目を向けるような動きをさせたいのですが、チームとしてどういう考えがあるか聞かせて下さい。

【回答者：安達】

宝塚、伊丹、川西はいい選手がいます。それが今まではセレッソ、ガンバに流れていました。伊丹は兵庫県内なのでなんとか食い止めたいという思いから、伊丹にジュニアユースを設立しました。現状はグラウンドがなかなか使えないなど、現場は苦労しています。しかし、そこはなんとか確立し、ガンバやセレッソに流れないようにしていきたいと思っています。今年の中1、中2の κατηγοリーでやっていきますが、今後も継続していきたいと思っています。ガンバ、セレッソに流れていることは承知しています。これをなんとか阻止していくようにしたいと思っています。

丹羽竜平選手の移籍の経緯を教えてください。

【回答者：安達】

彼自身、この前オリンピック代表候補に入ったように将来性ある選手です。ただ、うちの戦力を分析したときに、試合に出るのが難しいという判断になりました。松田監督とも相談しましたが、今彼に一番大事なのは緊張感のある試合に出ること。公式戦に出て、レベルアップすること。これが一番大事。うちで試合に出られず、ベンチをあたためていたら、伸びるところが伸びない。そこで判断しました。セレッソ大阪は、完全移籍で獲得したいといってきましたが、うちは完全では出さない。1年たったら帰ってきてもらおうと話しました。本人も「頑張ってきます。絶対帰ってきます」と言っていました。彼は良い選手であるだけに、しっかりと試合に出場して帰ってきてほしいと思っています。

昨シーズン、日本人補強、外国人補強が何故できなかったのですか？今後こういった対策を取っていくのか？社長とGMの兼任を続けるのか？この辺りの体制をどうするのですか？

【回答者：安達】

昨年最初につまずいたのは外国籍選手の獲得失敗でした。前にも申し上げた通り、次から次へと外国人ストライカーの獲得がうまくいかず、最初の選手につまずき、そこから3人の選手もダメ。その後、ウインドウの問題で断念。やむなく、パロン選手を取りました。彼のコンディションの悪さは分かっていたのですが、練習している間に戻るとしていました。しかし、戻らなかった。そしてホルヴィ選手の移籍に関しては先ほど申し上げた通りです。こうなれば、外国人選手をあてにせず、今いる選手で戦おうとスタッフとも相談しました。その後、外国人選手の補強にトライせず、外国人選手はトーマ選手だけ。また若手のガブリエル選手やレアンドロ選手が来ましたが、あまり期待せず、日本人だけで戦おうと。そして実際に最後の入れ替え戦は日本人選手だけで戦いました。結果としてはそれ

がプラスになったと思います。

外国籍選手獲得の失敗を踏まえて、今年は、昨年の仙台でのリーグ最終戦が終わって、入れ替え戦突入決定という翌日に韓国に飛び、ポッティ選手との契約を行いました。万が一 J2 に残留しても、ヴィッセルに来てくれるという仮契約です。その後戻って、レアンドロ選手とも同じ条件で仮契約しました。入れ替え戦が終わったときには、二人とも仮契約が決定していたということです。同じ轍を踏むと責任問題にもなりますので、その点ではうまくいったと思っています。ポッティ選手とレアンドロ選手は二人とも非常に性格が良い。ブラジル人にこんなに良い性格の選手がいるのかと思うくらいです。いろんな要望をきっちりやってくれました。約束を守らないブラジル人選手が多いのですが、彼らはメールや電話で佐藤 GM 補佐と連絡を取り合いきっちりやってくれました。ポッティ選手はご存知の通り、トヨタカップに出ていたので「休み期間が少なくなる。もし許されるなら、合流を遅らせてくれないか」と要望がありましたが、「うちは始動日である 1 月 15 日に集合できない選手は契約をキャンセルする」といったら、「分かった」と。二人揃ってちゃんときてくれました。ブラジル人選手はよく合流を遅らせようとするのですが、二人は本当にきっちりやってくれています。

松田監督・ペドロの二頭体制についてその経緯を教えてください。

二頭体制がうまくいかないことは十分承知していました。しかし、バクスター氏が退団したあの時は、まだ松田監督がヴィッセルにきて一週間くらいでした。当然、最初はペドロコーチでいこうと思っていましたが、彼のライセンスが日本の J リーグでは監督をできないということが判明。苦渋の決断で松田さんに監督をやってもらうことになりました。しかし、彼は形だけの監督で、実際はペドロが指揮を執る方法を取らざるを得なかった。松田さんに「監督をやってくれないか？」と言ったが、彼はまだ来てわずかだということで、固辞したのです。「私は名前だけの監督で、実際はペドロコーチがやってください」ということだったので、これはやむを得ないということで、そうしました。

では、入れ替え戦で何故松田監督にしたのかというと、ペドロコーチが悪い、良いではなく、流れを変えたかったというのが本心です。なかなか勝ちきれない。そうした時は何かを変えないといけない。何ができるかというと、監督の指揮を変えさせる。これしかないと思いました。松田監督自身も来て 3 ヶ月経っていましたが、選手の特徴も分かっていました。ましてや戦う相手は福岡。仙台から帰ってくる飛行機の中で決断して、伊丹についでからスタッフみんなに決断を発表しました。

そして今回、何故、松田監督かと言いますと、ペドロコーチは 12 月にライセンスを取りに行くと言っていたのですが、取りにいけなかったのです。さらに、入れ替え戦で流れが変わって、松田監督で復帰できた。そうなるこの流れで続けていきたいという判断になります。先ほど申しましたが、彼も日本では 4 バックの経験を積んでいますので、彼に任せようという決心をしました。

SC 鳥取との提携について

・鳥取との提携があったが、これといって中身がない。清水と甲府のような提携を持っていくような形があると思う。このようなパートナー関係が鳥取とあるのですか。

・鳥取は（Jリーグ）準加盟を認められましたが、今後の取り組みは？

【回答者：安達】

実は、SC 鳥取の中がうまくまとまらず、かつてヴィッセルができたときに選手であった塚野君がGMとしてやっていたのですが、湘南の育成部門のコーチに就任してしまいました。その後、尾形さんという方がチームをまとめていましたが、社長になる人がいなかったのです。このように向こうの会社の中がうまくいってなく、うちとの提携も進展していないというのが現状です。今後、提携を続けたほうがいいのかの判断を向こうの会社が収まった段階で話をしたいと思っています。

今、Jリーグの中でU-21 といつかU-22 という、各チームの高卒、大卒で入ってきた選手の公式戦がないというのが問題となっており、そこで選手の育成ができていないのが問題になっています。高卒の選手があまり練習できない状況におかれているチームが多い。そんなところから、今あるサテライトリーグを変えて、試合数を増やして、若手の真剣勝負をさせよう。できれば賞金をつけて、公式戦の価値をあげよう、とJリーグに提案しています。できるだけ早く変えようと言っていますが、まだできていません。今年の中ごろか秋ごろにはやろうとしています。地域別にわけてやろうとしているのですが、ひょっとしたら、韓国の釜山のチームなども入れてやろうかといっています。それができると公式戦が増えて、選手達ももっとモチベーションがあがると思います。今は公式戦ではなく、練習試合が多いので、ユースの選手を3選手ほど使ったり、違うポジションをさせたりして、よそのチームに大敗したりする。今はプロの育成部門としています。公式戦ができれば、勝ちにこだわってやっていかせたいと思っています。

経営面について弊社専務 叶屋宏一よりご挨拶

専務の叶屋です。

昨年は応援いただきありがとうございました。

皆さんには半年くらい会っていない気がしますが、久しぶりにお会いできて嬉しいです。

J1 に昇格し、嬉しい気持ちも反面、大変な一年になると思いますが、今年一年よろしくお願ひします。

責任やミッションの話を最初にします。

ヴィッセルの夢は世界クラブ選手権に出ることです。

私がいる間にできるかわかりませんが。

そしてクラブの理念はヴィッセルに関わる全ての人を幸せにすることです。

それを達成するためには、事業サイドのミッションは一人でも多くのファンを増やして、

一円でも多くの強化費を増やす。
一円でも多くの利益を出して、強化サイドに渡す。
そして強化サイドはそのお金を効率的に使って、いいチームを安定的に作るということ。
強化と事業がバランスよくやるのが大事だと思っています。
チームが強い、弱いはクラブの責任。
私の責任はいかに多くのお金を渡すかということです。
勝てない責任は、お金を渡すことが出来なくて、チームが強くなれないこと。
その責任を明確にしておきたいなあとと思っています。
私がこのクラブに来て3年が経ちました。
5年一区切りと考えると残り2年が勝負だと思っています。
自分がやってよかったのかなあ？とか、収入があがって強いクラブ作りができているか？
とか常に考えています。
ご存知の通り、私も安達社長も楽天からの出向ではありません。
ということは、期限がない分、自分から辞めるか、三木谷会長が辞めろというか、皆さん
からの声で辞めるか、それ以外はやりたい限りやっていきます。
クラブが神戸に長く存在することが大前提です。
それを我々がやっていいのかを常に考えているし、本当にやれるのかをこの2年間で真剣
に考えていかないといけない。
この2年間でクラブの努力を真剣に、徹底的にやっていきたい。
この場でお伝えしたいのは、クラブの努力を理解したうえで、皆さんが協力していただけ
ればいいクラブになるのではということです。
私が考えるクラブの力が4つ。
クラブの愛情や信頼感が一つ。
営業力、アイデアが2つ。
スタジアムの雰囲気。
そしてチームの魅力。
この4つが全部うまくいくと、チームがうまくいく。
この4つのうちどれかひとつが欠けてもダメだと思っています。
繰り返しになりますが、この2年間、まずヴィッセルが存続してチームが強くなるという
土台作りをしていきたい。
今年がだいたい、我々が生み出す売り上げが18億。
ご承知の通り、クラブの経営状態が開示されるようになりましたが、15億~22億がJ1、
J2の入れ替えライン。
福岡、甲府、セレッソ、大分がこのあたりになります。
ここから抜け出さないと、クラブの力は安定しないと思っています。
今、18億、来年は20億、という風にどんどん上げていって、強化費に渡していかないと

けない。

なかなか2億ポーンと増えることはありません。

単純に計算すると、1試合あたり有料入場者を2000人増やさないといけない計算になります。

これからスポンサー収入をあげる、有料入場者をあげる。

今日はウイングスタジアムの社長がいらっしゃっていますが、スタジアムを有効に使えることが一番大事だと思っています。

【質疑応答：経営面】

スタジアム内での売店。去年新しい売店が増えたが、スタジアム内の行き来が出来ないため、ゴール裏にいると利用できない。都度、「スタジアムの構造上、行き来できない」と回答してもらっているが、どう考えているのか？

そして、ミサキガーデン。中の売店との価格の折り合いがつかないと思うが、その価格調整をすることで試合前に開催することはできないか？

昇格報告会の際、従来の後援会だけでなく、コロッケやパンなど露天で出してもらっていた。今年は海岸線後援会にこだわらず、応援してもらっているところに参加してもらいたい。この件に関してクラブはどう考えているか？

【回答者：叶屋】

飲食の件やミサキガーデンの件で質問がありましたが、我々はスタジアムを借りているだけなので、その改善はできない。もっと自由に運営できないとできません。フルキャストスタジアムは広告がたくさんついています。こういうことをやっていかないと。ユニフォームの4つとスタジアムの看板だけではダメ。もっと増やしていきたいです。

ミサキガーデンは、運営会社のウイングスタジアムとの関係。飲食の話もよくありますが、今後改善していこうという話はしています。飲食に対する要望が高いのは分かっています。元々外に出すのもだめだったのです。少しずつ改善していきます。

昨年は、バックスタンドの上半分開放していなかったが、今年もしないと聞いた。警備費がかかるかといっていたが、その前に、先にどうしたらそこが埋まるかという方法を考えるのが先ではないか？

【回答者：叶屋】

今年は、入場者数は落ちると思っています。おそらく13000人。2年前は平均15000人。その内訳は、有料7000人、シーズンチケット1000人、招待7000人だった。

今年はトータル10000人が有料（シーズンチケット込み）、招待3000人という形にして、チケットの価値を高めていきたい。13000人だと、バックスタンドの上段を開放したいが、コスト的にあわないのです。入場者数が見込める試合は開けますが、無理をして開けることではない。先ほども申しました通り、1円でも多く稼ぎたいということもあります。実はド

ームの開閉にもお金がかかります。この辺りのコストにもこだわっていきたいと思っています。うちの台所事情は、正直いって J1 下位レベルです。現在、シーズンチケットの販売状況は約 2000 枚。内訳は指定席が 1100、自由席 900 しか売れていないのが現状です。

予算の枠内という話があったが、ヨーロッパのプレミア、エスパニョーラ、セリエ等は、花があるが赤字も多い。ドイツは経営諮問委員会がしっかりしているが、花がない。プロスポーツの難しいところだとは思いますが。リスクを高く結果を求めるのか、身の丈主義でやるのか、その当たりの今後の経営方針を教えてください。

【回答者：叶屋】

予算はリスクを犯しても高いレベルを求めるか、というとノーです。Jリーグの2部制は赤字を生みやすい。野球は落ちることがないので中長期で計画が立てられます。この2部制はファンにとっては楽しいかもしれないが、経営的には赤字を作りやすいシステム。ぎりぎり頑張ってやれる予算。シーズンチケットもまだ予算達成していません。そうはいつでも、寝ていてもやれる数字でやっても意味がないので、スポンサーにしてもチケットにしても、ある程度ギリギリ頑張ってやれる目標にして予算をたてています。

モバイルファンクラブと携帯サイトについて

- ・ファンクラブはMFCでバイキングがあるが315円払っている。月315円、年間3780円払っているが、内容メリット感じられない。去年は来場ポイント、トレーディングカードなどをもらったが、携帯の中でしか見られないサイトがあるが、携帯で見ると、月々の情報料にプラスして、パケット通信料がかかる。動画がパソコンのページ上でパスワードを入れたら見られるように、他もあのようにしてもらいたい。
- また、ほかのチームにあるような、クレジットカードで月3000円とか払ってやるようなものにならないか？V-Styleがそのようなものになるのか？ファンクラブ特典として年賀状ぐらい欲しい。

【回答者：叶屋】

モバイルファンクラブなのですが、誤解されているかもしれませんが、モバイルファンクラブは無料のモバイル会員。315円払っているのは、有料の携帯サイトです。

モバイルファンクラブは無料で現在、13,000人が登録しています。従来あったスポーツのファンクラブや歌手のファンクラブはいろんなメリットがついています。ファンクラブだとチケットが買えるというのがファンクラブ。うちのモバイルファンクラブは、ファンの方がロイヤリティと思うものではなく、試合の結果や情報を知ってもらうことで、ファンになってもらいたいというものです。今年は、登録数を30,000人に増やして、ヴィッセルからの情報が来ることで、認知してもらうツールとして考えています。

その上にあるのが、携帯サイト有料会員です。僕自身、携帯サイトコンテンツはいいと思っているし、広報が毎日やっていますし、ホームページの更新頻度や内容については、Jの

中でもトップクラスにあるのでは、と思っています。ご指摘ありました誤植などは注意していきますので、よく更新されていると自画自賛ですが思っています。

携帯サイトの会員が約 4,000 人。意外とたくさんの方がご覧になってくださっていると思います。三木谷会長もよく見ていて、よくチェックも入りますので、引き続き充実させていこうと思っています。

実際、携帯サイトの料金はクラブにはいくら入ってくるのでしょうか？

【回答者：広報部長 岩元里奈】

315 円からクラブに入るのは半分もありません。クラブに落ちるのは、手数料など引かれ、ちょっとしか落ちません。そんな中でもクラブの情報を日々伝えたいと思っていますので、ご意見などありましたら、おっしゃってください。モバイルファンクラブは試合に行ってみるもの、携帯サイトは読んで楽しめるものという認識を持っていてください。

今年は回数券の発売はないのか？

【回答者：叶屋】

回数券の販売は、ニーズがあるのは分かっていますが、個人の方はシーズンチケットを買ってください。今のところ販売の予定はありません。

スポンサーとの関係についてお伺いします。去年スポンサーしている会社についてもヴィッセル神戸のスポンサーをしているというポスターなどの掲示がありませんでした。その辺りをどう考えていますか。

叶屋より回答：

スポンサーとの関係ですが、確かにそうかもしれません。だいぶ、スポンサーも様変わりして、ヴィッセル神戸を使って、自分達の知名度も上げたいというスポンサーが増えてきました。我々より世間で認知度の高い会社は、そこまではしなくていいよというところもあります。一方では、そう認知度が低い会社は、ヴィッセルにお金払っているから、何かしなきゃと思っている会社が増えているのも確かです。どんどん利用してもらって良いと思います。

スポンサーの数ですが、一昨年は 72 社、去年 69 社、そして今年の目標は 90 社。今、75 ~ 80 社までできています。あと 10 社ほど増やさないといけないので。当初の目標は 80 社でしたが、簡単にクリアしそうだったので、90 社に引き上げました。

今年のヴィタミンクラブはどうするのか？

【回答者：叶屋】

ヴィタミンクラブは運営が大変。収入をきちんとあげて、育成にまわそうと思っていたが、利益は 100 万円程度です。今年は育成の方にも、育成の彼らが本気になって、お金をもら

っているという理解がないと続けられないと言っています。彼らが主体となってやっていく予定です。発掘育成型は、何もなく育成にお金をつぎ込むだけではないので、考えながらやっていかないといけないと思っています。

今シーズンのユニフォームのデザインですが、胸のメインスポンサー「楽天」のロゴがかっこ悪い。セカンドロゴなどを考えてもらえないのか。また、いぶきの森で白黒の練習着を選手達が着ているが（練習試合時）、あれを販売してほしい。

【回答者：叶屋】

会社のロゴは会社の顔ですので。私はロゴのデザインより掲出場所が J リーグの規定で制限されているほうが何か変えられる手はないかなあとと思っています。強くなれば、かっこよく見えると思います。

また、白黒の練習着の販売は、今のところ考えていません。

サポーターからファンドレイズする方法は考えてないか？例えば、株を販売するとか、そういうことがあるのか？

【回答者：叶屋】

まだそのレベルまで至っていない。まずはたくさんの方が、理解してシーズンシートの数が増えてから。その次の段階だと思っています。

メールマガジンについて。

- ・書き手によって試合レポート内容が、選手の名前をニックネームで書いている時がある。真剣にやっているのか分からない。例えば「モギーニョがなんとか～」と書かれていたり。クラブの人間がそういう部分で緊張感をもってほしい。親しみを持って読んでもらうのとは違い、しっかりとレポートしてほしい。いぶき日記とは違う。試合の結果をそののりで書かれると違う。

【回答者：岩元】

試合レポート内に、モギーニョとか書いていることは絶対ないです。

アツだったり、クニだったり、メディアが書いているわけではなく、ヴィッセルのクラブが発信していることをより分かりやすくするために、アツ、クニ、クリと書くことはあります。ただし、文章内で最初に出てくるときにはアツ（三浦淳宏）と書いて、正式表記を出しています。ただ、もし不快な思いをされたのであれば、全体のメンバーで話し合って決めます。

携帯サイトのウィルコム対応はまだか？

【回答者：岩元】

ウィルコムも 2、3 人ご意見をいただいています。システムを構築するのにお金がかかり

ます。ウィルコムでシステムをつくれるほど、収入の目処が立っていないのが、現状です。

ネーミングライツのクラブへの影響

- ・ホームズスタジアムに変わるが、このネーミングライツによってヴィッセルに与える影響をどう考えているか。
- ・ホームズスタジアムになったが、芝の現状は改善されるのか？

【回答者：叶屋】

今回のネーミングライツは、公募されているので条件はオープンになっています。年間 7000 万で 3 年という契約で、ヴィッセルにも半分入ってきます。収入的には助かっています。ほかのネーミングライツと違うのは、ネクストさんはヴィッセルのスポンサーにもなっているというところです。別途スポンサー契約も結んでいます。ですから、ピッチ上に看板も出ているし、冠デーも予定しています。

そうすることで、スポンサーとの親近感も感じてもらえると思っています。味スタ、九石ドームなどは行政の圧力も強かったと思うが、今回は、純粋にネーミングライツすることで知名度をあげたい、スポンサーすることでヴィッセル神戸に強くなってもらいたい、神戸を盛り上げたいという思いがあるようです。

ただ、芝の問題は別。これはネクストさんにも言っていますが、スタジアムを買ったわけではなく、呼称権を得ただけ。管理は引き続き、ウイングスタジアムでやられる。直接的には関係ありません。是非、名前を覚えてください。3 月 1 日から変わります。

観客動員について。

- ・ガンバ・レッズ戦は入ると思うが、それ以外での取り組みを聞かせていただきたい。専務には数値目標を。

【回答者：叶屋】

以前は、芸能人を呼んでということもやっていましたが、去年の途中から参加型のイベントも多くやっています。手作りのイベントで、普段サッカーをやらない人もサッカーって楽しいよね、と言ってもらえるようなイベントを増やしていっています。

今年はバック自由席を 500 円に値下げして、家族 4 人で 5000 円で来られるということをウリに、家族に優しいスタジアムと考えています。公園に行く代わりに、5000 円出してサッカーを見に来てくださいということをアピールしていきたい。

いぶきの森球技場前の信号に、地点名をつけられないのか？

【回答者：叶屋】

相談してみます。

本日のサポーターズミーティングの告知が遅かったのでは？

【回答者：業務部長 来住健次】

本来なら 1 月末に出す予定でした。言い訳せずにこの点に関しては謝ります。すみませんでした。次から気をつけるようにします。

入れ替え戦のバスツアーが到着予定 14 時だったのに、キックオフギリギリに着いた。前日発に出来なかったのか？

【回答者：叶屋】

確認しておきます。

6 月 20 日の駒場での浦和戦のチケットがもう売り切れた。一人でも多くのサポーターを連れて行きたいので、クラブとして対応してもらえないのか？

【回答者：来住】

ある程度の席数は確保しています。平日アウェイなので、400 席全て押さえておく自信はないが、ある程度は抑えています。クラブが間に入って、委託販売という形になるかもしれないが、最低 100 枚は押さえています。

いぶきの森の駐車場でサインをもらっているが、雨が降ったら濡れる。できれば屋根を作って欲しい。

【回答者：来住】

屋根を作るのは難しいが、その代わりに、サインをもらうフェンス沿いが現在、砂利敷きだが、タイル張りに張替えをする予定です。駐車場と入り口までは足元をよくさせてもらおうと思っています。クラブハウスまでタイル張りでいけるように徐々に改善していきます。

弊社専務 叶屋より終わりの挨拶：

何度も言いますが、まずはクラブが自立して存続すること。そしてクラブが強くなること。それを日々真剣に考えています。

クラブ作りは難しく、興行エンターテイメントだけではなく、地域の方とも関わっていかねばいけません。

ただ見に来てくれただけではダメ。

地域の皆さんの協力も必要になってきます。

神戸にあることが大事だと思っています。

去年感動したことが 2 つありました。

昇格したときは感動よりホッとしたという気持ちでしたが、一つは神戸新聞が号外を出してくれたことです。

非常にいい号外を作ってくれました。

見たときに個人的に感動しましたし、作り手の気持ちが感じられました。

お礼に伺ったときに、編集の方もいて「よかったなぁ」といわれ、作って、最後のスイッチを押した話を聞いて、そういう気持ちが大事だし伝わってくるなぁと。

もう一つは、岩手から2年前に引っ越してきたサポーターの方の話です。

一昨年、こちらに来てから全然勝ってないといわれていました。

去年は会わなかったが、この前お会いして、岩手に帰ることになったと聞きました。

「昨年一年一緒に戦えて、よかった。子供もサッカースクールに入ってサッカー好きになった。神戸に来てよかった、J1にいても来ます」と言ってもらえました。

越してきて、家族が右往左往するわけではなく、いぶきに来て、試合を見に来て、サッカー好きになって神戸のファンになって地元に戻る。

そういう話を聞いたとき、クラブの存在する意味を感じました。

Jのクラブが多すぎて分からないという声もあるが、いろんな地域にJのクラブが存在する意味はあると思っています。

もちろん、存続するだけでなく、強くして、全員でよかったと思われるようにならなければいけませんから、同時にその責任を感じています。

残された時間があると思っていないので、この2年でやってよかったという成果を出せるようにやっていきたいと思います。

そのためには、皆さんの協力が不可欠です。

今年一年間だけではなく、今後も一緒に戦っていければと思っています。

今日は本当にありがとうございました。

13:03 ~ 終了